

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に確認できる場所に掲示し、入社時の研修にて共有を行い、統一したケアが出来るように努めている。	3項目からなるホーム独自理念がユニット入り口の掲示板とトイレに掲げ共有と実践に繋げている。新入職員や外国からの技能実習生については入職時に理念に沿った研修を行い、意思統一を図っている。また、職員一人ひとりが人事考課制度の自己評価表を用い振り返りを行い、理念に沿った支援に繋げている。家族に対しては利用契約時に理念の内容を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域とのつながりを持つ事が難しいが美容師に来ていただく事や散歩に出る事で交流の機会をもてるよう努めている。	地域の一員として区費、消防協力費を納めている。新型コロナ禍が長引き殆どの地域行事が中止となり残念な状況が続いている。そうした中、ホーム前の道路が子供たちの通学路であることから元気に挨拶を交わしたり、散歩の際には地域の人々とも挨拶を交わし交流を深めている。更に、「オカリナ演奏」「人形劇」「日本舞踊」等のボランティアの来訪も現在は自粛しているが、収束後には再開する予定であるという。また、ウィズコロナに向け区長、民生委員の方を始めとした地域の方々との交流を深め、更に地域に根ざしたホームとなるように活動を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、お花を持って来て下さる地域の方や地区の役員の方が来所した際、認知症に対する理解やどんな支援を行っている施設なのか会話を通じ知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、コロナの影響において集まったの会議は出来ていないが運営推進会議資料として利用者様の近況報告や活動報告を行い、ご意見いただけるように用紙を同封し、日々のケアに活かしている。	2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で運営推進会議を行っているが、現在は新型コロナの影響を受け書面での開催となっている。利用者の近況報告、行事報告、職員関係等を書面にし、家族、区長、民生委員、市介護保健課の会議メンバーに意見書と返信用封筒を同封の上届け、意見を頂きサービスの向上に繋げている。新型コロナの感染対策についての意見や家族からの激励なども頂き、職員は感謝の意を表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍において直接施設に来ていただく機会が少ないが運営推進会議資料を通じて活動報告を行い、ケアサービスの取り組みについてご意見をいただきながら協力関係に努めている。	地域包括支援センターとはケアマネージャーが利用者状況等について連絡を取り合っている。市介護保険課とは事故報告、新型コロナの感染対策等と合わせ、生活保護者の入居相談等で連携を取っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応している。年4回行われている市主催のグループホーム部会も新型コロナの影響を受け中止の状況が続いているが、収束後には再開する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議や勉強会を行い、職員が拘束への理解を深め拘束の無いケアに努めている。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。転倒落下危惧のある利用者があり、以前入院されていた時には落下防止ベルトを使用していたが、当ホームに移られてからはきめ細かな見守りの徹底とイスの位置を工夫したりして拘束のない支援に取り組んでいる。また、帰宅願望の強い方がいるが家族と電話をしたり、寄り添い優しく話を聞くことで納得していただいている。更に、ベットよりの落下防止を図るべく法人独自の見守り支援システムを全利用者のベットに設置し安全確保に繋げている。3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開き拘束に対する意識を高め拘束のない支援に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において虐待に対する理解を深め、利用者様の日々の変化に注意を払いケアを行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて制度の理解を深めている。今後、対象の方がいた場合には支援出来るようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安な事や疑問点を伺い、納得された上で契約が行えるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響により書面でのお知らせとさせていたが、利用者様やご家族からの意見や要望は職員で共有しサービスの向上に努めている。	新型コロナ禍が長引いており、家族の面会は事前に連絡をいただき窓越しでの面会が続いている。週1回～月1回位面会に来訪する方が多く、遠方の家族の皆様はお盆、正月等にお見えになっている。そうした中、月1回かかりつけ以外の病院の受診に家族が同行しお連れしているケースもある。また、ホーム内での生活の様子や行事の際の写真、及び、一人ひとりの利用者を写した写真にメッセージを添える等、請求書に同封し家族に届け喜ばれている。家族が集まる機会も新型コロナ禍で自粛状態が続いているが、収束後には敬老会に参加していただく予定を立てている。また、誕生日、母の日、父の日には「花」「洋服」「好きな食べ物」等のプレゼントが家族より届けられているという。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案については職員会議や個人面談を行い、発言しやすい環境づくりに努めている。	月1回多くの職員が出席できる日を選び職員会議を行っている。業務に対する意見交換、各種勉強会、カンファレンスなどを行い、サービスの向上に繋げている。現在、外国からの技能実習生等が数名勤務しているが、利用者に対する応対も丁寧で喜ばれている。法人としての人事考課制度があり職員は年1回4月に個人目標を立て10月に中間チェックを行い、4月、10月の2回管理者による個人面談も行われモチベーションアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課面談を設け自身の評価や意見を言えるように職場環境の改善・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会、法人研修会を通し知識、技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し他施設との交流を通し、意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際にご本人やご家族より生活歴や情報を元に職員で情報共有をし、安心して生活が出来るように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後いつでもご家族が困っている事や不安な事等に耳を傾け対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談や入居後のカンファレンスを通じ本人に適したサービスが利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を行いながら利用者様が出来る事をやっていただきながら時には昔の知恵を教えていただくなど共に暮らしに寄り添う関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所時や連絡の際に普段の様子をお伝えし、ご家族からも利用者さまへの思いや相談、アドバイスを頂き、共にご本人を支えられる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でのやり取りや居室に写真を飾られ関係が途切れないように支援に努めている。	家族から了解をいただいている近所の方の来訪があり窓越での面会を行っている利用者がある。日用品、洋服等利用者の希望の物は家族に連絡の上職員が買い物してお渡している。理美容については2ヶ月に1回、馴染みの訪問美容師の来訪がありカットしていただいている。年末には職員と共に年賀状を作成し家族に発送して喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性も考慮しながら、関わりやすい座席にするなど工夫し、必要に応じて職員が間に入り支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、該当する事例はないがサービス終了後の相談や支援に応じる体制になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情、発する言葉から思いをくみ取り、利用者様本位のケアに努めている。	意思表示の難しい利用者があるが、洋服選び、好きな食べ物、飲み物選び等についていくつかの提案をし、表情や行動も含め意向を把握することに努めている。日々、気づいた言動等は個人記録に纏め、朝、夕の申し送り時に確認し情報を共有し、利用者一人ひとりの思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とのコミュニケーションの中で情報収集し生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、排泄の確認、食事量等で健康状態の把握し、申し送りにて情報共有を行い今の状態に合った生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケースカンファレンスを行い情報や意向を取り入れ、検討した上でご家族へ報告し見直し、作成を行っている。	職員は2~3名の利用者を担当し、居室管理、誕生日カードの作成、家族との連絡等を担当している。家族の希望は面会時や電話で伺い、定期的に行われるカンファレンスの席上意見を出し合いモニタリングを行い、管理者とケアマネージャーがプラン作成を行っている。入居当初は事前面談時にお聞きした情報を参考に1ヶ月の暫定プランを作成し様子を見て本プランの作成に繋げている。その後は3ヶ月毎の見直しを行い状態が安定している場合は6ヶ月での見直しとし、急な変化が見られた時には申し送りで情報共有し、随時見直しに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアの実践状況や利用者様が発した言葉や表情等記録し、職員で情報共有して次のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族、職員からの意見を取り入れその方に応じた支援が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容師や薬局、医療機関等の地域資源を利用し安全で安心できる生活を送っていただける支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、利用者様全てが施設で往診対応となっている。本人、ご家族の希望で訪問歯科で診て頂いている方もいる。何か変化があればその都度、医師、ご家族へ報告を行い適切な医療を受けられるように支援を行っている。	入居時に医療機関についての意向を聞きホームとしての取り組みも説明している。現在、全利用者がホーム協力医の月1回の往診で対応している。合わせて契約の訪問看護師の来訪が週1回金曜日にあり利用者の健康管理と合わせ医師との連携を図っている。また、カテーテル、摘便等で週3回～月2回、訪問看護師と個人契約を結ばれている利用者もいる。更に、月1回整形外科に家族がお連れしている利用者もいる。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応し、月2回歯科衛生士の来訪もあり口腔ケアに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師来訪日に日頃の様子を報告し相談を行っている。また24時間相談が出来る体制が取れており、迅速な対応が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の様子やその状態に至った経緯をきちんと伝え、利用者様が適切な医療を受けられるように努めている。退院時はサマリーを基に情報の共有を行い適切なケアが受けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎える時ご家族、主治医、看護師、施設職員でカンファレンスを行い、ご家族の思いやご本人の気持ちをくみ取りながら方針を共有し支援に努めている。	法人として重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。食事や入浴が難しくなり終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホーム関係者で話し合いの機会を設け、家族の意向を確認の上医師の指示の下、同意書にサインを頂き看取り支援に取り組んでいる。1年以内に4名の看取りを行い、新型コロナウイルス禍ではあるが家族には居室に於いて最期の時を共に過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。また、看取り中には利用者の好きだった音楽を流したり、最期の時を迎える洋服を準備し着替えを行い、心の籠った支援に当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや事故防止マニュアルを作成している。また勉強会にて応急手当の対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し迅速な行動がとれるよう備えている。近所に住む利用者様ご家族にも何かあった時には協力いただけるようお願いをしている。	消防署に届け出の上、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で年2回防災訓練を行っている。12月には消防署より訓練用の消火器を借用し火災想定訓練を行い、消火器の使い方や通報訓練も行い、利用者全員が入り口のあるフロアまで移動し避難訓練を実施している。3月には夜間想定避難訓練を予定している。また、緊急連絡網については定期的に電話とメールでの訓練を行い、合わせて家族との協力関係も図り、緊急への備えとしている。備蓄として「米」「味噌」「水」「ガスコンロ」「発電機」「懐中電灯」等が用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者の前では聞かれたくない事にも配慮し、場所を移動するなど利用者様の気持ちをくみ取り声掛けや対応を行っている。	耳の不自由な方が多く、居室に移動し耳元で話しかけるよう心掛けている。言葉遣いにも気を配り、親しみを込め優しい声掛けを徹底し、トイレ介助の際には周りにわからないようお連れしている。また、利用者の前では他の利用者の話はしないよう気を付けている。呼び掛けは基本的には苗字に「さん」付けで呼び掛けているが、家族の希望で名前でお呼びしする方もいる。入室の際には「ノック」と「入らせて頂きます」の声掛けを徹底している。年1回、人権擁護の資料を全職員で確認し合いプライバシーに配慮した支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に意思確認を行い、選んで決めて頂いている。思いや希望を言いやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人1人の体調やペースに合わせて柔軟に対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で決められる方には選んでいただき、決められない方には職員が代わって選んでいる。季節に合った服や行事などにはお洒落していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には一緒に準備や片付けを行ったり行事の時には季節の物を食べたりおやつにリクエストしていただきホットケーキと一緒に焼くなど食事を楽しんでいただけるように心がけている。	自力で摂取できる方が若干名で、一部介助の方が半数強、全介助の方が三分の一という状況である。副食については季節感を加味した配食会社のものを用い、「ご飯」と「汁物」はホームで調理し提供している。誕生日には好きな食べ物とケーキでお祝いをしている。また、毎月の行事の際には利用者の希望を加味しながら、年末年始には「年越しそば」と「高齢者向けおせち料理」を楽しみ、2月の節分には「鰻のひつまぶし」をテイクアウトし、3月の雛祭りには「ケーキバイキング」等を味わい、食べることの楽しさを感じていただけるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し情報を共有している。水分摂取や食事量が少ない利用者様にはご家族と相談した上で栄養補助食品等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分のできる方へは声掛けを行い、出来ない方には職員が行っている。希望がある方は定期的に訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて利用者様1人1人の排泄状況に合ったケアを行っている。	一部介助の方が半数弱、全介助の方が半数強という状況である。利用者一人ひとりのパターンを職員が把握しており、排泄表も参考に定時誘導に合わせ一人ひとりの様子を見てトイレ誘導するように心掛けている。全介助の利用者については様子を確認しながら3～4時間に1回おむつ交換を行い、気持ち良く過ごしていただけるようにしている。排便については2～3日ない場合は排便コントロールを行い「お茶」「牛乳」「ジュース」等で1日1,000cc～1,500ccの水分摂取に取り組み排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく水分を多く摂取出来るようにご本人の好みに合わせた飲み物を提供する事や利用者様によってはその方に合った整腸剤や下剤等を処方していただき予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが体調やご本人が望まない時などは時間の変更やご本人のタイミングで入浴出来るように支援している。	全利用者が介助が必要な状況となっている。基本的に週2回の入浴を行っている。入浴拒否の方もいるが時間を変えることで入っていただいている。一般浴槽使用の方が半数弱、ストレッチャー使用の機械浴の方が半数強という状況である。入浴の際には全国の温泉気分を堪能できる入浴剤を使い、入浴後には「スポーツドリンク」や「リンゴジュース」等を味わい寛ぎのひと時を送っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のペースで休みたい時に休んでいただいている。		

グループホームさくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加があった際は必ず内容がわかるように周知し、利用者様の状態に合わせて服薬方法を変更し服薬後は体調の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞購読やテレビでのスポーツ観戦、編み物等の利用者様が楽しめることを探りながら今までの趣味が継続できるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、通院などの外出した際に景色を楽しんでいただく等支援を行っている。	外出時、自力歩行の方が三分の一弱、歩行器使用の方が若干名、車いす使用の方が三分の二弱となっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり近くの公園まで出掛けている。また、家族が付き添い専門医への受診に月1回外出される方もいる。今年度も新型コロナ禍が続き外出が出来ない状況が続いているが、暖かくなったら計画を立て「お花見」等の外出に出掛けたいという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の所持を希望されている方はいないがご本人が使えるように支援する事は可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の携帯電話を持っている方もおり自由に通話をされている。携帯電話を持っていない方にも施設の電話で話せるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてられるように装飾をおこなったり、室温の確認を行い居心地の良い空間作りに努めている。	ユニット入り口前の大きな掲示板には利用者の生活の様子が写真で数多く紹介されており、ホーム内での活動の様子を窺うことができる。天井が高いホール兼食堂は十分な広さが確保され陽当たりも良く開放感が漂っている。ホール内には季節の飾り付けがされており、現在は「節分」の飾りが施されている。そうした中、歌を歌ったり体操で体を動かしたりし、ゆったりとした生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の気分で居室で過ごしたり、ソファに座って過ごしたり、利用者様が過ごしたい場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みのある家具やご家族の写真などを置き、居心地よく安心して過ごしていただけるよう努めている。	各居室には洗面台が設置されプライバシーにも配慮した造りとなっている。持ち込みは自由で家族と相談の上使い慣れたイス、衣装ケース、タンス、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や好きなスイーツ、職員から贈られた誕生日カード等に囲まれ、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるりやすいように絵を使って表示し、居室も目印になる物を取り付ける等工夫している。		